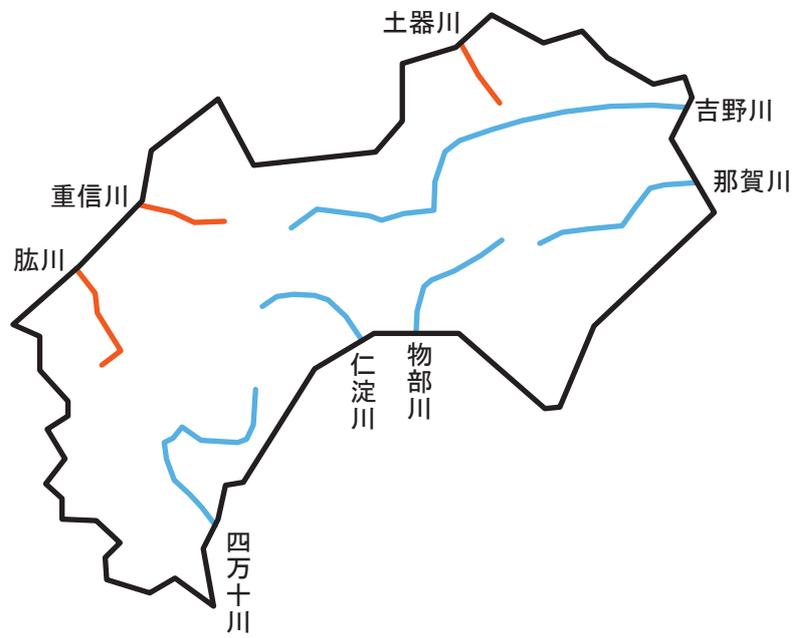


四国





紀伊水道

徳島河川国道事務所 撮影



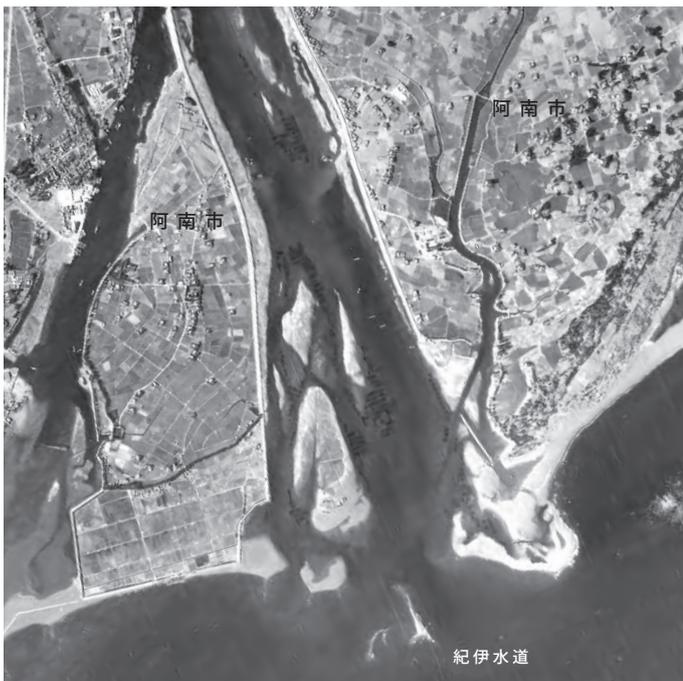
1961年5月撮影

吉野川（よしのがわ）は、流域面積は3,750km²、幹線流路延長194kmを有する。愛媛県西条市に頂を有する瓶ヶ森（標高1,896m）より湧き出る高知県吾川郡いの町の白猪谷に源を発し、四国山地の南側を東流、その後高知県長岡郡大豊町で向きを北に変え四国山地を横断する。三好市山城町で愛媛県新居浜市の冠山を源とする最長の支流、銅山川が合流し、三好市池田町の池田ダムで香川用水により香川県に分流、三好市池田町で再び東流し、徳島平野を貫流し、旧吉野川を分流、徳島市で紀伊水道に注いでいる。河口付近には、広い河川敷と中州が発達し、干潮時には大きな干潟が干出する。

那賀川 83



那賀川河川事務所 撮影



1962年2月撮影

那賀川（なかがわ）は、流域面積 874km²、幹線流路延長 125km を有する。徳島県那賀郡那賀町木頭北川の剣山南麓に源を発し、徳島、高知両県々界の山脈を東麓に沿って南下し、北東流に転じる中流域では著しく蛇行する。坂州木頭川、赤松川を合わせ、阿南市上大野において平野に出て下流域で再び東流し、紀伊水道に注いでいる。



国土地理院 撮影 (1997年)



1962年9月撮影

土器川（どきがわ）は、流域面積 140km²、幹線流路延長 33km を有する。香川県琴南町と徳島県三野町の境にある讃岐山脈に源を発し、国道 438 号に沿って山を下り、丸亀平野を北流して丸亀市土器町北と丸亀市富士見町の境界から瀬戸内海に注いでいる。河口部左岸は埋立てが進み工業団地、漁港、競艇場等の利用がなされている。

重信川 85



松山河川国道事務所 撮影



1962年5月撮影

重信川（しげのぶがわ）は、流域面積445km²、幹線流路延長36kmを有する。高縄半島の東三方ヶ森（標高1,233m）に源を発し、南西に流れて山地を脱し、松山平野（道後平野）をほぼ西流し、石手川など支流を合流しながら、松山市と伊予郡松前町との境界を流れ、伊予灘に注いでいる。



大洲河川国道事務所 撮影



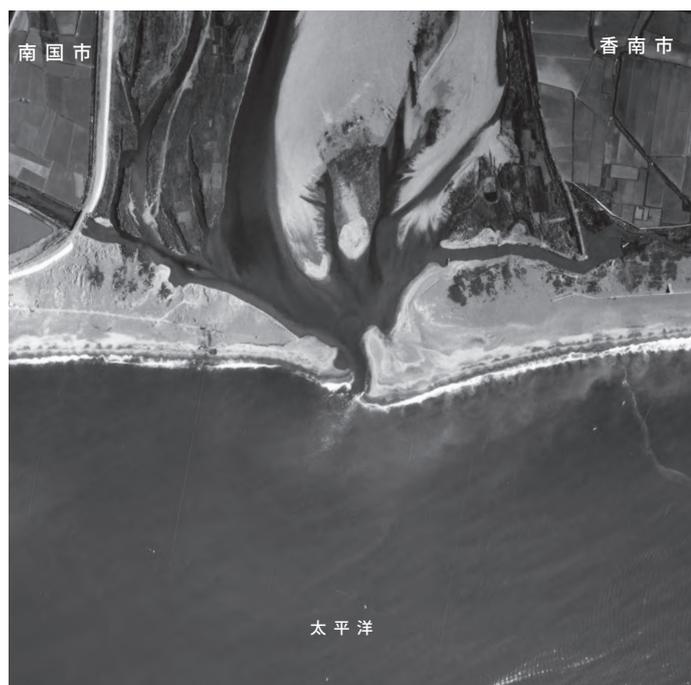
1964年5月撮影

肱川（ひじかわ）は、流域面積1,210km²、幹線流路延長103kmを有する。愛媛県西予市宇和町鳥坂峠に源を発し、南流し、西予市宇和町の南部で東向きを変え、西予市野村町坂石で黒瀬川、船戸川と合流し、北へと向きを変える。その後は河辺川、小田川等の支流を集め、山に狭まれた狭窄部部を流れ、喜多郡那長浜町で伊予灘に注いでいる。河口部右岸には長浜港、左岸には沖浦漁港が位置している。

物部川 87



高知河川国道事務所 撮影



1962年5月撮影

物部川（ものべがわ）は、流域面積 508km²、幹線流路延長 71km を有する。剣山地の白髪山（しらがやま：標高 1,769.7m）に源を発し、山地に囲まれた峡谷をほぼ南西に流れ、土佐山田町で山地を離れたのち香長平野を南流し、土佐湾に注いでいる。河口部一帯は、多くの渡り鳥の移動時における中継地点となっている。河口部右岸には高知空港、左岸は吉川漁港が位置している。



高知河川国道事務所 撮影



1962年5月撮影

仁淀川（によどがわ）は、流域面積 1,560km²、幹線流路延長 124km² を有す。四国の最高峰である石鎚山（標高 1,982m）に源を発し、愛媛県内を西南に流れた後東に向きを変えて高知県に入りいくつかの支流をあわせつつ南下し、吾南・高東平野を貫流して、土佐市付近で土佐湾へ注いでいる。

四万十川 89



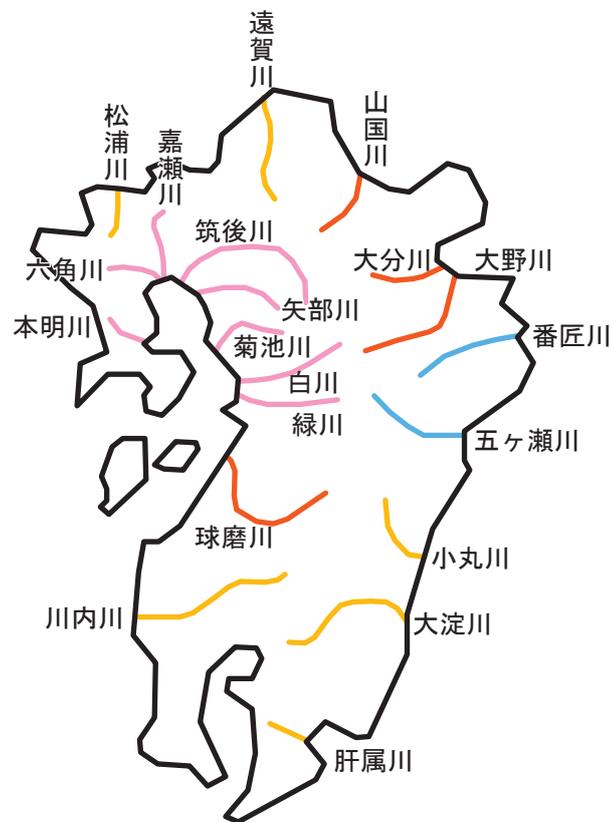
中村河川国道事務所 撮影

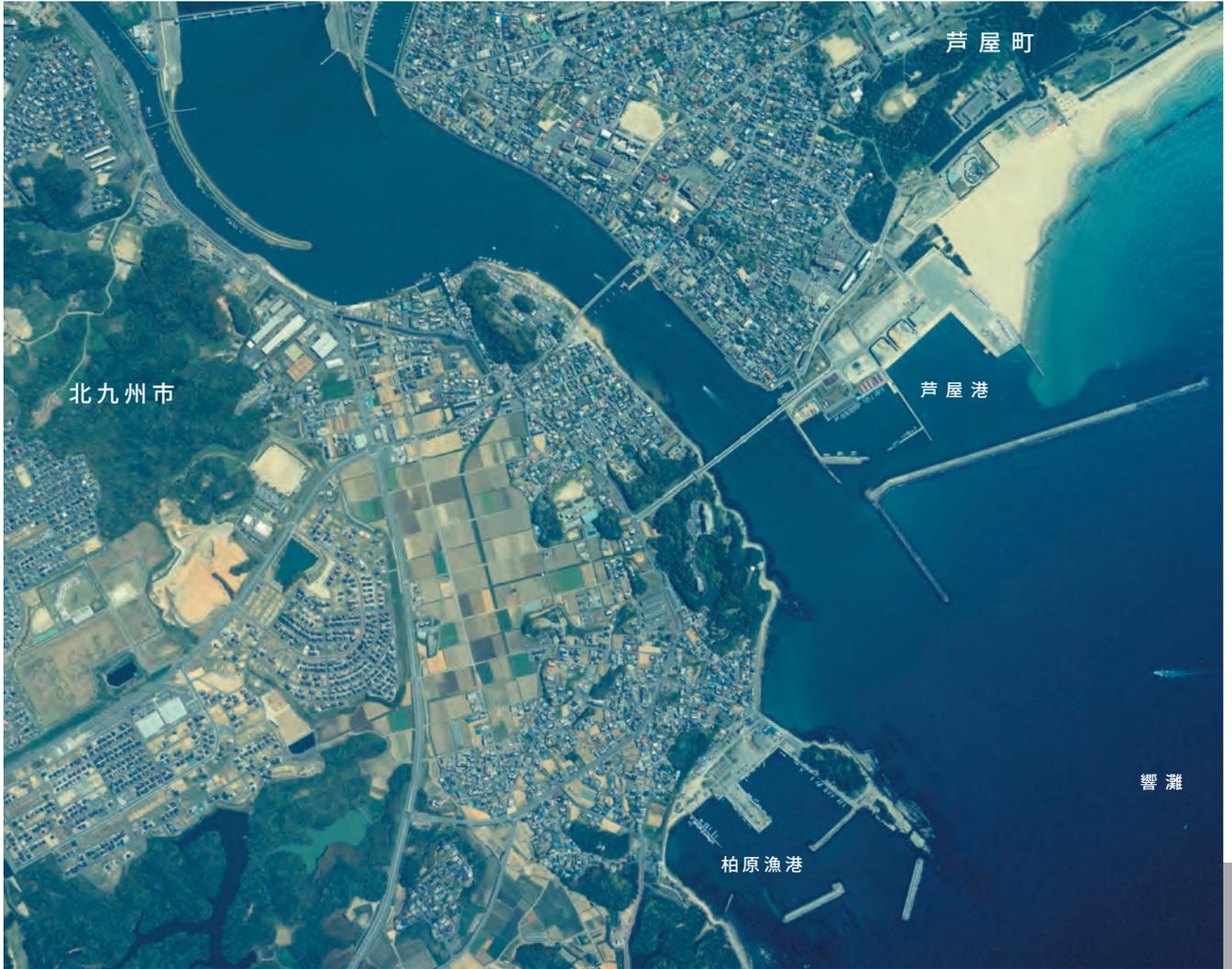


1964年9月撮影

四万十川(しまんとがわ)は、流域面積2,270km²、幹線流路延長196kmを有する。高知県高岡郡津野町の不入山(いらずやま)を源流とし、上流部の大野見村、窪川町を緩やかに南下し、中流域の大正町で流れを西に向け、十和村、西土佐村で激しく蛇行して再び南下し、下流の中村市から太平洋に注いでいる。河口部左岸は導流堤を隔て、下田港が位置している。

九州





国土地理院 撮影 (2005年)



1961年8月撮影

遠賀川（おんががわ）は、流域面積 1,026km²、幹線流路延長 61km を有する。福岡県南東郡にある嘉穂市の郡馬見山に源を発し、飯塚市において穂波川を合わせ市街部を貫流し、直方市において彦山川を合わせ直方平野に入り、さらに犬鳴川、笹尾川等を合わせ芦屋町において響灘に注いでいる。河口部左岸には芦屋港、右岸には柏原漁港が位置している。

山国川 91

九州



山国川河川事務所 撮影 (2001年)



1965年10月撮影

山国川（やまくにがわ）は、流域面積 540km²、幹線流路延長 56km を有する。大分県中津市山国町英彦山（ひこさん）付近に源を発し、南東方向に流れ、中津市山国町守実付近で北東方向に向きを変え中津市耶馬溪町、中津市本耶馬溪町と続き、中津市三口にて豊前平野に出て、友枝川、黒川等を合わせ、中津市において中津川を分派したのち周防灘に注いでいる。河口部右岸には中津小祝港が、左岸には吉富漁港が位置している。



筑後川河川事務所 撮影



1962年8月撮影

筑後川（ちくごがわ）は、流域面積 2,863km²、幹線流路延長 143km を有する。熊本県阿蘇郡瀬の本高原に源を発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において、くじゅう連山から流れ下る玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を流下し、その後、再び峡谷を過ぎ、佐田川、小石原川、巨瀬川、宝満川等多くの支川を合わせ、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、住吉町にて早津江川を分派して柳川市昭南町で有明海に注いでいる。河口部両岸は干拓により農地としての土地利用が活発である。

矢部川 93



筑後川河川事務所 撮影

九州



1962年8月撮影

矢部川（やべがわ）は、流域面積 647km²、幹線流路延長 61km を有する。福岡県八女郡矢部村の三国山に源を発し、日向神峡谷の溪流をあつめ西流したのち、山間を離れ八女市において最大支川星野川を合わせ、さらに支川辺春川、白木川等を合流し、基準地点船小屋下流で沖端川を分派し筑紫平野を蛇行しながら、途中支川飯江川、楠田川を合わせ、柳川市大和町大坪とみやま市高田町昭和開の境から有明海に注いでいる。河口部両岸の堤内地は干拓による農地としての利用が活発である。



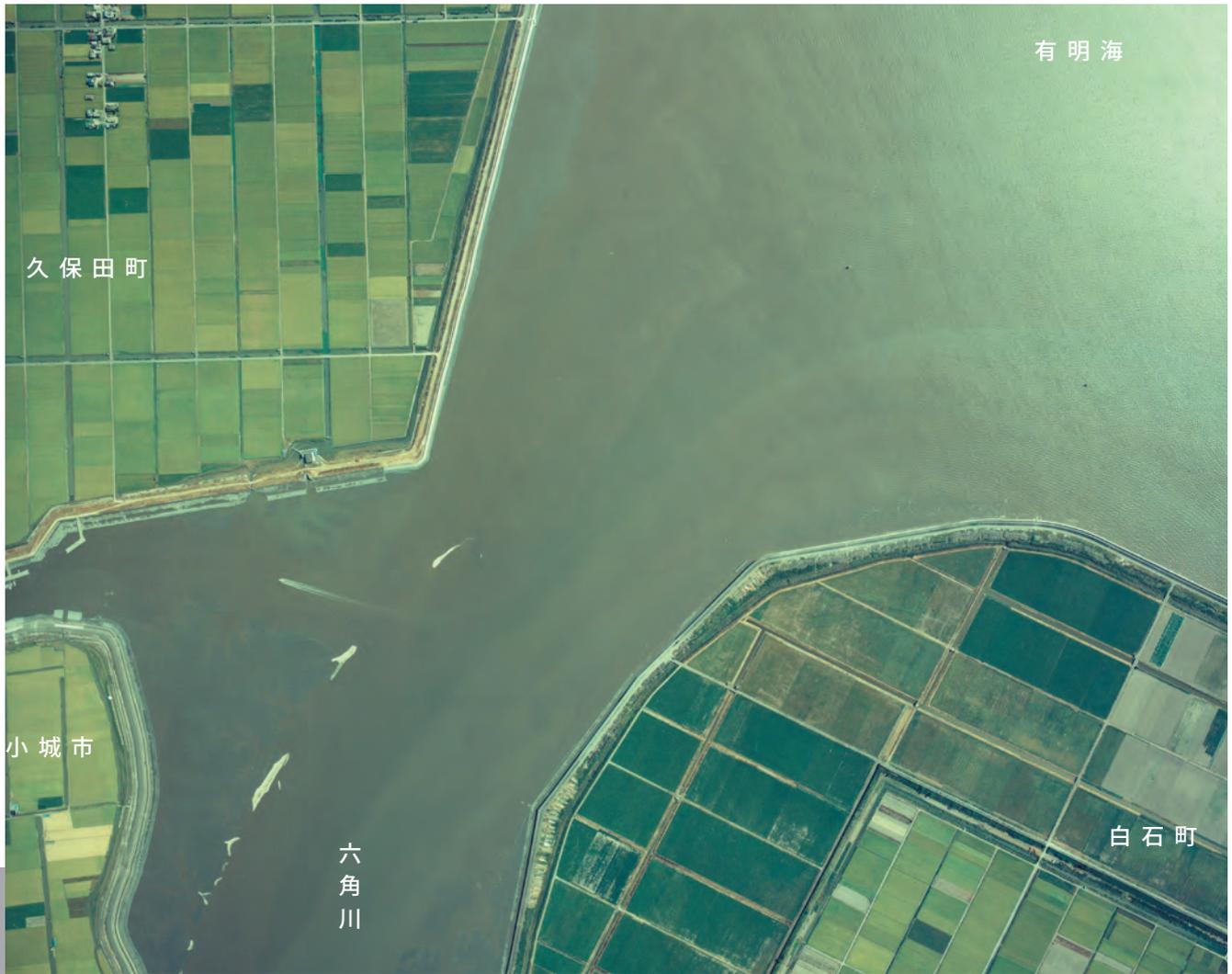
武雄河川事務所 撮影 (2005年)



1964年5月撮影

松浦川（まつうらがわ）は、流域面積 446km²、幹線流路延長 47km を有する。伊万里市南部の黒髪山（標高 518m）北東麓、青螺山に源を発し、山地部を縫って途中多くの支川を合せて北流し、相知町で東松浦東部の山岳地帯から流れ出た厳木川を合わせて流れ、唐津平野に出て半田川さらに河口部において町田川を加え唐津湾に注いでいる。

六角川 95



国土地理院 撮影 (1987年)



1962年5月撮影

六角川（ろっかくがわ）は、流域面積 341km²、幹線流路延長 47km を有する。佐賀県杵島郡山内町神六山に源を発し、概ね東流しながら武雄市二俣において武雄川を合わせ、白石平野を屈曲して貫流し、河口部の住ノ江において牛津川を合わせ有明海に注いでいる。



国土地理院 撮影 (1987年)



1962年5月撮影

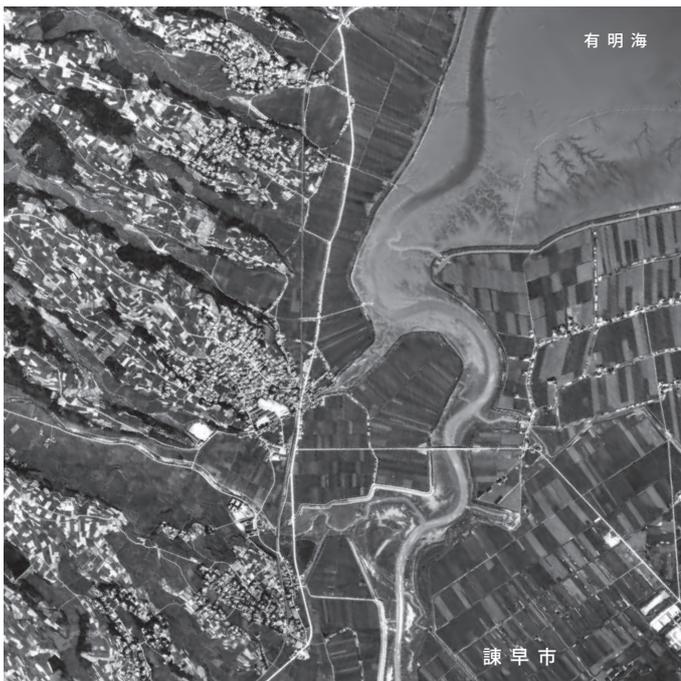
嘉瀬川（かせがわ）は、流域面積 368km²、幹線流路延長 57km を有する。脊振山地の金山（標高 967m）南西麓に源を発し、上流部の北山ダムを経て途中多くの支川を合わせながら山間部を流下し、平野部に入ってから一部天井川となり、途中多布施川に分派したのち、下流で祇園川を合わせて佐賀平野を流れて、有明海に注いでいる。

本明川 97

九州



長崎河川国道事務所 撮影

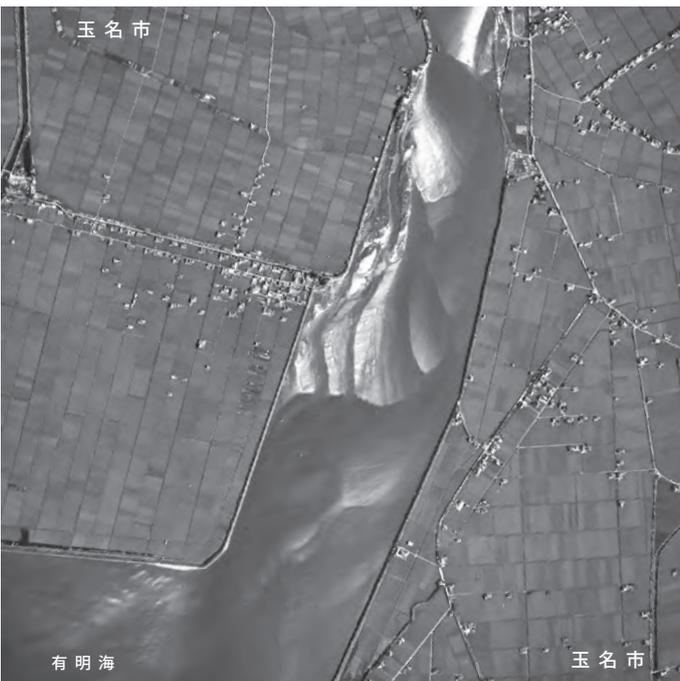


1963年9月撮影

本明川（ほんみょうがわ）は、流域面積87km²、幹線流路延長21kmを有する。五家原岳（標高1,058m）南西麓に源を発し、急峻な山麓を南下した後、諫早市市街地南部で東流し、さらに、福田川、半造川を合わせて北東流に転じ有明海に注いでいる。河口部では干拓が進み、農地としての利用が活発である。



菊池川河川事務所 撮影



1962年9月撮影

菊池川（きくちがわ）は、流域面積 996km²、幹線流路延長 71km を有する。熊本県阿蘇郡深葉山に源を発し、阿蘇外輪山の溪流を集め菊池市を流下して迫間川、合志川、岩野川等を合わせつつ菊池台地を貫流し狭さく部に入り、和仁川および江田川等を合わせ玉名平野に出て玉名市市街地南部を流れ、有明海に注いでいる。河口部では干拓が行われて農地としての利用が活発である。

白川 99



熊本河川国道事務所 撮影 (2006年)

九州



1962年9月撮影

白川（しらかわ）は、流域面積480km²、幹線流路延長74kmを有する。熊本県阿蘇郡高森町の根子岳（標高1,433m）に源を発し、阿蘇山カルデラの南部を西流し、阿蘇外輪山の立野付近において黒川を合せ、熊本市街を南北に貫流し、有明海に注いでいる。河口部では加藤清正以来の干拓が行われている。



熊本河川国道事務所 撮影 (2006年)



1962年8月撮影

緑川（みどりかわ）は、流域面積1,100km²、幹線流路延長76kmを有する。熊本県上益城郡三方山に源を發し、甲佐町において津留川を合わせ、城南町および嘉島町において熊本平野に出て、御船川、加勢川、波戸川および天明新川を合わせ西流へと転じ、熊本市および宇土市において有明海に注いでいる。

球磨川 101



八代河川国道事務所 撮影

九州



1962年5月撮影

球磨川（くまがわ）は、流域面積1,880km²、幹線流路延長115kmを有する。熊本県球磨郡水上村の銚子笠（高さ1,489m）に源を発し、九州山地を流下しつつ、川辺川などの多くの支川が流入し、球磨盆地、人吉盆地のほぼ中央を貫流し、再び険しい山の間を流れ、やがて八代平野に出て、前川、南川を分流して八代市で八代海に注いでいる。



大分河川国道事務所 撮影



1961年4月撮影

大分川（おおいたがわ）は、流域面積 650km²、幹線流路延長 55km を有する。大分県大分郡湯布院町由布岳（標高 1,584m）南西麓に源を發し、湯布院盆地を通過し、阿蘇野川、芹川等を合わせて挾間町において、大分平野に入り賀来川、七瀬川を合わせ、大分市市街地を東西に分けながら北流に転じ、別府湾に注いでいる。河口部右岸は導流堤を隔て、裏川の河口部に津留泊地が位置する。

大野川 103



大分河川国道事務所 撮影

九州



1961年4月撮影

大野川（おおのがわ）は、流域面積 1,465km²、幹線流路延長 107km を有する。宮崎県高千穂町北部、大分県と宮崎県境をなす祖母傾連山の祖母山（標高 1,757m）に源流を發し、竹田盆地を貫流し、緒方川、奥岳川等を合わせて中流峡谷部を流下し、大分市戸次において大分平野に出て、さらに半田川等を合わせ、大分市大津留において乙津川を分派し、別府湾に注いでいる。河口部両岸は、埋立が進み、工場、コンビナート等の土地利用が活発である。



佐伯河川国道事務所 撮影



1965年8月撮影

番匠川(ばんじょうがわ)は、流域面積464km²、幹川流路延長38kmを有する。大分県佐伯市本匠の三国峠に源を発し、急峻で屈曲の多い溪谷を流下し、途中久留須川、井崎川等を合わせながら東に流れ、山間部を抜けて、ゆるやかに蛇行して佐伯市街地に至り、さらに堅田川を合わせて佐伯湾に注いでいる。

五ヶ瀬川 105



国土地理院 撮影 (2005年)



1962年9月撮影

五ヶ瀬川（ごかせがわ）は、流域面積 1,820km²、幹線流路延長 106km を有する。九州山地の向坂山（標高 1,684m）東麓に源を発し、宮崎県五ヶ瀬町西部を北流しながら、一旦熊本県山都町に入った後、五ヶ瀬町との境を成してから再び宮崎県へ戻る。高千穂町からは南東流に転じ、深い峡谷を形成して蛇行する。三輪において大瀬川を分派後、延岡市街地を貫流し河口付近にて祝子川、北川を合わせ日向灘に注いでいる。



官崎河川国道事務所 撮影 (2006年)



1962年8月撮影

小丸川（おまるがわ）は、流域面積474km²、幹線流路延長75kmを有する。九州山地の三方岳（標高1,476m）北麓に源を発し、東流して東郷町において屈曲し尾鈴山の西麓に沿って流れ、途中、渡川を合流して木城町南端で平地部に出て再び東流し高鍋町で切原川を合流して日向灘に注いでいる。

大淀川 107



宮崎河川国道事務所 撮影 (2006年)

九州

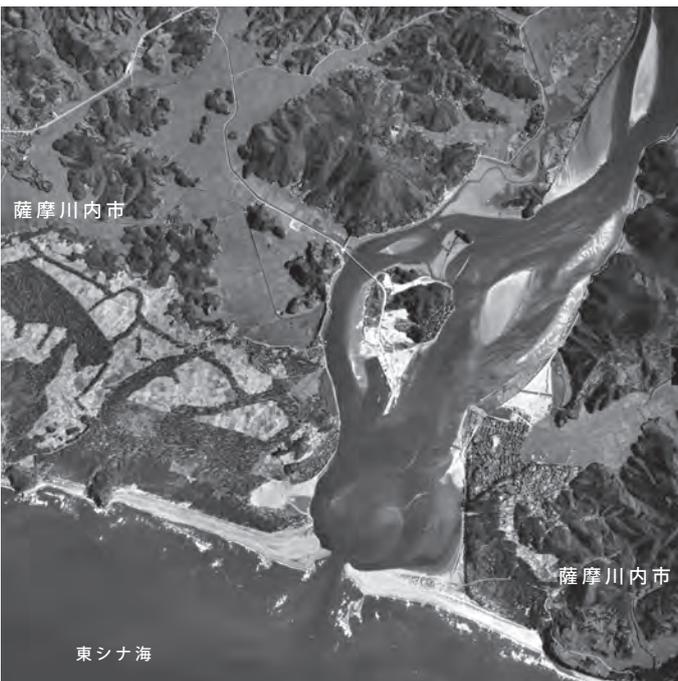


大淀川（おおよどがわ）は、流域面積 2,230km²、幹線流路延長 107km を有する。宮崎県と鹿児島県の県境に位置する中岳（標高 452m）に源を発し、沖水川等の支川を合わせながら、都城盆地を貫流して、中流の山間狭窄部を流れ、宮崎平野に入った後、本庄川等の支川を合わせ、宮崎市都心部の南で日向灘に注いでいる。河口部左岸には、宮崎港が位置している。

1962年9月撮影



川内川河川事務所 撮影 (2007年)



1963年12月撮影

川内川（せんだいがわ）は、流域面積 1,600km²、幹線流路延長 137km を有する。熊本県球磨郡の白髪岳（標高 1,417m）に源を発し、南流して宮崎県えびの市の西諸県盆地（加久藤平野）に出て、支川二十里川、池島川、長江川等を合わせ西流し鹿児島県に入る。鶴田ダム貯水池を流下し、さらに鶴田町、宮之城町の中流狭窄部を下り、川内市（川内平野）に入り、多くの支流を合流して東シナ海に注いでいる。河口部左岸には川内原子力発電所、右岸には川内火力発電所が位置している。

肝属川 109



大隅河川国道事務所 撮影

九州



1963年10月撮影

肝属川（きもつきがわ）は、流域面積 485km²、幹線流路延長 34km を有する。大隅半島西部、高隈山系御岳（標高 1,182m）東麓に源を発し、笠野原西部を南流し、始良川、高山川、串良川等を合わせると共に東流へ転じ、肝属平野南部を流下し、志布志湾に注いでいる。河口部左岸には柏原地区の港が建設中であり、さらに沖合に志布志石油備蓄基地が位置している。

編集後記

河口部の空中写真は、事業実施のための調査など個別河川において撮影されたものや、河口閉塞現象解明等の研究テーマに沿って整理されたものがありますが、全国的範囲で河口部の空中写真を収めた写真集はありませんでした。

平成14年度および15年度において、専門家からなる検討会が設置され、汽水域の河川環境における特徴や物理・化学的現象および人為的改変とレスポンスの関連およびその調査・分析手法に関する検討が行われました。この時に直轄河川事務所のご厚意によって事務所により撮影された河口部の斜め写真を集めることができましたので、これらの写真と関係事務所より新たに収集した写真、昭和40年前後に撮影された国土地理院の空中写真をあわせて写真集とし、河口部の変容を記録として残すことにしました。国土地理院による空中写真は、ここに掲載したものより古い年代もありますが、できるだけ河口部全体が撮影されたものを使用しました。

写真集を眺めてみると、様々な沿岸域開発によって河口部の地形が変わったり、河道内に形成される砂州の位置や形状が変化したり、あるいは砂州が全く消失した様子など、全国一級河川の河口部は大きく変遷したことがわかります。さらには、河口域を生息・生育の場としたり、生活史の一時期に利用したりする生物に及ぼした影響も少なくないことがこのような資料を通して推察することができます。

謝辞

本書をとりまとめるきっかけとなりました「汽水域の河川環境の捉え方に関する検討会」(委員長 福岡捷二(当時) 広島大学大学院教授)の委員の皆様、国土交通省河川局の関係の皆様、並びに河口部の空中写真掲載を快く了承いただきました国土交通省直轄河川事務所、空中写真の複製を許可くださいました国土交通省国土地理院に対し、心よりお礼申し上げます。

岸田弘之 前 研究第二部長
現 国土交通省河川局砂防部保全課海岸室長
阿部 徹 研究第二部長
斐 義光 研究第二部次長

【日本の河口写真集】

2007年3月31日発行

編集・発行 財団法人 河川環境管理財団
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9
TEL : 03-5847-8301 FAX : 03-5847-8308

印刷・製本 日本設計サービス株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋 6-13-11
TEL : 03-5401-0913 FAX : 03-5401-0915



財団 河川環境管理財団
法人

